

言葉は易しく思いは深く

昭島市  
佐藤光子（東城町二出身）

新聞の投石欄やNHK俳壇などで、常連のようによく目にする名前がある。

A.D.もその一人だ。書籍の新聞は大  
りではなく、週刊誌や「オール読物」など  
の雑誌、J.R.の旅行雑誌「ジパング俱  
楽部」などの俳句欄にまでその名前を見  
る。(いったいどんな人なのだろう)と  
興味が湧く。どれも難しい言葉は遺つて  
いない。平明な句で、一読、詠まれて  
いる風景が頭に広がる。時には、「ん?」  
と立ち止まつてから、「分かる、分かる」  
「そうそう、そんな気持ちになるよね」と共感できる。

私が、今年の六月まで二十年近く所属していた糸魚川の「籠」は、五百人ほどの会員を擁する俳句結社であつた。主宰の齊藤美規先生は第五回現代俳句大賞を受賞されており、現代俳句協会の顧問。

しかし、主張がご高齢になられたことで、三十年間発行されていた月刊の結社チヤーの「宮坂静生俳句実作講座」は終刊になり、解散となつた。私は二年前から、立川にある朝日カルチャーハウスで、この教室の評判を聞いたからだ。以前、美規主宰が「宮坂静生は、若手の中で一番力がある俳人」と評され、「薦」の全国大会の講演を依頼したことがあつた。だから、私は宮坂先生の「地貌論」の「季語の伝統的な情趣へ到る連類之力」を味方につけながら、その土地独特の地貌の中から生まれる季語をつかみ直すこと、が、季語にいのちを与える」いう主張を知つていた。

「つれづれ会」とA用

「二〇一〇会」の合会の後、西条室で、  
談の時に、「A氏ってどんな人だろう」と  
どんな風に勉強しているのか、訊いてみた  
たいな」「一緒に句会をやつてみたい  
」など、A氏のことが話題になつた。だ  
もが同じようなことを考えるものらし

「いや、『句会』に来て、いろいろ教えてください」と手紙で頼るのが儀礼ではないかなどと、意見はさまざまだった。そこで、会長が句会への参加指導の手紙を書いた。几帳面な性格らしく、すぐに返事が来た。「忙しいし、それ指導など、性に合いませんので」とい文面だった。断られると、一層関心がある。「いつでもご都合のつく時でよ

強している人、新聞の俳句欄へ投句して  
力を試している人など、句歴も様々な男  
女半々の十人の句会である。

現代俳句協会の会員名簿に、A氏の住所と電話番号があった。割合近くにお住まいだ。

る「岳」に入会した。「岳」には毎月六  
句投句する。

作者に遠慮して本音を言わないこともありまするからだ。

「つづれ会」では、四句出す。無記名で提出しても、字の癖から誰の句か分かるのを避ける意味で、集まつた句は手分けして清書をし、コピーをとつて渡される。その中から各自感できるものを五句選ぶ。

「その熱意！」に負けたのか、「それでは一度伺います」という返事をもらえた。「指導ではなく、一緒に句会を楽しませました」。お詫びの言葉が、胸に沁みる。根っからの俳句好きで、清廉な人柄の上うだ。

な毛は、職人さんのようない三分刈だ。スタンダードカラーの濃淡の編柄のシャツの着こなしから、相当お洒落な人と見た。小さめのきちんとした手紙の文字から、神経質な人か想像していたが、それほどでもない様子だ。

A氏の参加は新鮮な気分にさせたが、この句会には無かった視点で詠まれている。A氏の句に違いないと、すぐに分かってしまう。私は、A氏の俳句より、だれの句をどう評価するか、どんな鑑賞をするかという点に興味があった。

A氏らしい句は、平易な言葉でありながら少しひねってあり、ちょっと考えさせられる。みんなにもそれが判るらしい。どの句にも点が入っていたが、次の句は中でも最高点だった。

海の甜秋の日傘にたたみけり

選んだ人は、それぞれ選評を言う。出尽くしたところで、「どなたの句ですか」と司会者。「はい、Aです」この句について、作者から何がありますかと訊く。

「これは『日傘』だから、一句一章でどちらかというと現代俳句協会系の作り方ですよね。『日傘を』とすると、一句一章になり、俳人協会系の作り方になる。

ここは、現代俳句系と聞きましたから、これで出してみましたと言った。当然、「に」と「を」の助詞一つで意味も変わってくる。A氏は、そんな使い分けをしてこの句会に参加されたのかと、ちょっと意外な気がした。

A氏が採っていない句について、全部採らざるの井を頼んだ。

「この句の場合、季語を独立させて上五に置き、一句一章にした方が、季語が働き、句全体が引き締まつてしまつかりとした句になります」A氏の説明は、明快だ。

仲間内だけでは気がつかない点の指摘もあり、やはり、新鮮味があった。句会後、喫茶室へ移った。当然、A氏への質問責めとなる。

A氏は自営業だといふ。五十五歳の時に友人の俳句に触発されてこの道に嵌り、今七十七歳とか。「え、喜寿?」若い!」と皆一様に声をあげた。それに、そんなに遅く俳句を始めて、二十二年で、あんなに多くの俳人の評価を得る俳句が詠めるようになるのかと、六十、七十年代が大半の「つれづれ会」の仲間は、驚きながらも意を強くしたようだ。

「初めは『これは』と思う結社を決めて、じっくりと基礎を学んだ。(主喜)に、実力がついたと認められ同人に推挙されて、その結社で活躍もしたが、もつとい

ろいろな主宰に学びたいと思うようになつた。そこで、所属する結社の主宰に向人を下りたいと申し出て、一会员に戻つたのです」という。

結社の同人として活躍していると、その才能を認められて中央の雑誌社からの原稿の依頼があつたりする。その場合、当然結社名を背負つて活動することになる。また、同人になると、(自分が属しているところの主宰が選をしているもの)は別として新聞などの投句欄に投句し、他の結社の主宰の選を受けることは、一般に憚られるものだ。

「いろいろな結社の句会に出たいといふことでそのような方法をとり、実際に今は、何ヵ所かの主宰の句会に出ている。どの俳人はどのよくな傾向の句を好むか分かつたので、それに沿つて投句します」と。話の様子では、どこの句会でも好成績らしい。

さつき、「この句会は現代俳句系だから」と言って句を出した理由が分かつた。一生懸命に勉強しながら俳句を楽しんでいることを尊敬するが、「——は、二夫にまみえず」の私には、ちょっとと考えられない。いや、A氏には有り余る才能があるから、そうしたくなるのだろう。

A氏は、結社に入らずにこの句会だけで勉強している人が居るとると、「基礎は、結社できつちり勉強することが大事。『主宰の俳句に惚れて』所属の結社を選ぶと良い。そして、主宰の顔を見て歩き、主宰が何気なく言つことにも耳を傾けていることだ。主宰と性が合わないと思つてもすぐには辞めることをせず、腰を据えて様子をみること。それから移

事。『主宰の俳句に惚れて』所属の結社で指導を受けるというわけにはいかない。しかも、その貴重な機会には大勢の参加者がいる。主宰の選に入らないと、自分の句の批評は聴くことは出来ない。数年前の同人総会では、七十人ほどで良寛の里を吟行した。良寛の達筆な文字

で、必ずしも上手になるとは限らない。ただ、言えることは、俳句を読む力にはなります」という。これには、私も同感だ。

## 俳句は自得

私の場合、糸魚川から遠く離れているので、主宰の顔を見る機会は少ない。全国大会など、同人になってから同人総会の時と、他に何かの吟行に誘われた時で年に三回くらいだ。

主宰の近くの人たちのように毎月句会で指導を受けるというわけにはいかない。しかも、その貴重な機会には大勢の参加者がいる。主宰の選に入らないと、自分の句の批評は聴くことは出来ない。数年前の同人総会では、七十人ほどで良寛の里を吟行した。良寛の達筆な文字

「一句碑や歌碑の字なんて、すらすら読める様じや価値が無いんだよ」と言い、みんなも「そうだ。そうだ」と、負け惜しみで同調した。



「龍」齊藤美規主審

私は、その時のこと、「歌碑の字は  
読みぬがよろし花曇」と、詠んだ。読み  
解けずにいるもやもやした気分を「花  
曇」の季語に託したのだった。

その句会では二十一点入り、最高点た  
つた。しかし、主宰選の予選句にもなつ  
ていなかつたようで、この句について主  
宰からのコメントは無かつた。

この句に入れた人々は、句会後、「同  
人がこれだけ入れたのだから、どこが駄  
目なのか、先生に説明してもらいたいよ」と不満げだった。

美規主宰は「俳句は自得するもの」と、力の  
普段から言つておられる。しかし、力の

全国大会なので主宰に会える、自分の句の批評を聞くことが出来る、と楽しみに遠路参加しても、予選以上に入らないと、どこがいけないかを訊くことは出来ない。

「入選した句の選評を聴いて、それを参考にして、自分の句のどこが悪いかを考え、自得しなさい」というのである。そのように勉強すれば、確かに実力がつぶく。

句会ではなく、「高点句に名句は無い」と言われる。また、主宰は、「同人の句会なのに、こんな句に点が集まるとは!」と、情けなさそうに言われることがあった。主宰は、私のこの句について何も言わなかつたが（こんな句が、高点とは!）内心思つておられたに違ない。

「入った時、その句を出してみた。やはり並選だった。句評で宮坂先生は、「納得出来るし、実感がある。けれど、それだけ」と言われた。「それだけ」とは、奥行きや広がりが無いということなのだ」と納得出来た。

無い私はいろいろ考えてみたが、分から  
ない。

宮坂静生俳句実作講座

と想像もされました」と、感想を言った。  
宮坂先生は、「その通りですね。めり  
はりの利いた、なかなか良い句です」と

黒田清輝

美規主宰はよく、「誰も採らない句を、

自分だけ採るのは気持ちが良いものだ」と言っていたが、その時、「ああ、こういうことなのだな」と思った。

この台に伏言（名詔）たりて用ひたが  
道わず、何も説明をしていない。ぶつきら棒と思われる句だが、その方が読み手の想像が広がる。

このような話をすると、宮坂先生は必ず話す相手の方を見て話をされる。大事なことは、黒板を使わるので、文語立派な説明も分かりやすい。

一つの句の中に、いろいろ内容を詰め

過ぎないこと。十人居れば、十人に分か  
る句ではなく、一人か二人に分かればよ

いという句を目指すこと。イメージが重

ならないように季語を考えること。句のリズムが大事だから、五七五の俳句の字

型（上五、中七、下五）から、字足らず  
字余りの破調になる場合があつても、中  
七は絶対に守ることなどと指導される。

「三句提出の中で一句良いのがあれば

て、特選、準特選のハードルは高い。「岳の同人も来ているが、「はい、やり直しイ

と言はれることがある。

私は二年間に特選はまだ一句しかない。「やり直し」も三句あり、三分の二以上は並選である。



「龍」全国大会で講演する「岳」宮坂静生主宰

は、小中学の一级下の同窓であった。  
—昨年一月のNHK全国俳句大会で  
〔金縄梅と空のあをさに立止まる〕とい  
うたかし氏の句が、深見けん二選の特選  
になった。大会には五万句ほど集まる  
うのに、凄い。

離段のたかし氏の姿をテレビで見たの  
で、早速お問い合わせ、「光子さんも、  
やつてみなればいい」と勧められた。

その気になって、一昨年の秋三句投句  
してみた。一句入選し、その中の一句「人  
声のたしかにしたる蜃寢覺」が鷹羽狩行  
選の佳作、西村和子選の秀作になり賞状  
をいただいた。

すぐに、美規主宰、宮坂先生に報告と  
日頃のご指導のお礼状を出した。大会の  
選者でもある宮坂先生は、すぐに励まし  
の手紙を下さった。

「岳」は、千人ほどの会員だ。宮坂先  
生は信州大学では名譽教授なので、それ  
ほど講義の時間は多くないかも知れない  
が、「岳」の会員の選句や指導の上、産  
経新聞などの選現代俳句協会の副会長  
としても忙しく、各地での講演、執筆な  
どで活躍されている。

講座での感想など書き、「お忙しい先  
生ですから、返信は無用です」と、断り  
書きをして、必ず返事を下さる。多く  
葉書を持ち歩きながら、東京・松本  
間の車中などでのわざかな時間を見つけ

この講座はなかなかの評判で、辞める  
人はいない。入りたくてもすつと欠員待  
ちの状態だという。

今年の五月に急逝されたが、上越在住  
で、「麓」「寒雷」の同人の中村たかし氏

は、小中学の一级下の同窓であった。

—昨年一月のNHK全国俳句大会で  
〔金縄梅と空のあをさに立止まる〕とい  
うたかし氏の句が、深見けん二選の特選  
になった。大会には五万句ほど集まる  
うのに、凄い。

離段のたかし氏の姿をテレビで見たの  
で、早速お問い合わせ、「光子さんも、  
やつてみなればいい」と勧められた。

その気になって、一昨年の秋三句投句  
してみた。一句入選し、その中の一句「人  
声のたしかにしたる蜃寢覺」が鷹羽狩行  
選の佳作、西村和子選の秀作になり賞状  
をいただいた。

すぐに、美規主宰、宮坂先生に報告と  
日頃のご指導のお礼状を出した。大会の  
選者でもある宮坂先生は、すぐに励まし  
の手紙を下さった。

「岳」は、千人ほどの会員だ。宮坂先  
生は信州大学では名譽教授なので、それ  
ほど講義の時間は多くないかも知れない  
が、「岳」の会員の選句や指導の上、産  
経新聞などの選現代俳句協会の副会長  
としても忙しく、各地での講演、執筆な  
どで活躍されている。

講座での感想など書き、「お忙しい先  
生ですから、返信は無用です」と、断り  
書きをして、必ず返事を下さる。多く  
葉書を持ち歩きながら、東京・松本  
間の車中などでのわざかな時間を見つけ

ては、皆さんに返信を書かれているのに  
違いない。必要なこと以外の手紙を出す  
のは遠慮しなければならない、と思った。

今年いただいた年賀状は、文面全部手  
書きだった。受講生や、会員の一人一人  
に向かられる眼差しは温かい。そういう  
細やかさが魅力で、結社の組織、結束も  
固いようだ。

### 俳句はお喋りの切り取り

A氏の話に戻るが、「俳句は、とにかく毎日沢山作り、捨てる。吟行へもよく行くが、その時は五十句くらい作る。例えば、昭和記念公園で吟行するとしたら、「\*時までに、\*句作りましょう。はい、解散」という漠然とした作り方では駄目。集合場所で五句、パークターレインに乗つたら三句。こもれびの里へ着いたら十五分で十句」という具合に区切り、どんどん場所を替えて作る。二十句くらいまでは手持ちの言葉で作られるが、三十句ぐらいになると言葉に詰まる。その苦しさを抜け出すべく、じつと対象と向き合つて言葉を探る。そのように苦しむと、そこから抜け出せる。そうしたらしめたもの、次々言葉が生まれてきます」と。もの凄い話である。

「ただ、お喋りのどこを切り取るか、ですね」

「切り取る」といえば、俳句と写真は似ていると言われる。シャッターをヤンスもセンスだが、目の前に広がった風景のどこに向けて、シャッターを切るか。同じ風景でも切り取り方はそれぞれで、その人の感性に因る。俳句は「お喋りの一部を切り取る」。写真と同じだ。

### 上越の俳人 岩関順雄氏

新潟日報の日曜版には、毎週一日報俳

壇の入選句の発表がある。選者は黒田

杏子氏、中原道夫氏で、俳句界の第一線で活躍の人である。

Jネットの会員で上越在住の岩関順雄

氏は、二人の選者に向けて俳号を変えて  
投句している。(中原選には「たかだ雁  
木」、黒田選には「岩関のぶお」)。この

「俳句を難しく考えないで、普段のお喋りだと思えばいい。お喋りする時、そ  
んなに難しい言葉を遣わない。お喋りの  
中に、本音、真実がある。男より女人  
の方がお喋りですか、女人の方は俳句に  
向いているのですよ」

笑いながら私たち女性の方を見て言つ  
た。こういう説を聞くのは初めてだ。A  
氏があちこちで勉強されて得た確信な  
であろう。

「ただ、お喋りのどこを切り取るか、ですね」

「切り取る」といえば、俳句と写真は似  
ていると言われる。シャッターをヤン  
スもセンスだが、目の前に広がった風景  
のどこに向けて、シャッターを切るか。  
同じ風景でも切り取り方はそれぞれで、  
その人の感性に因る。俳句は「お喋りの  
一部を切り取る」。写真と同じだ。

二人の選者の入選句の常連になつてゐるのだ。【ロータリー俳壇】でも、長谷川権選・稻垣江子選の入選を果たしている。を得ているとは、相当の実力者である。

### 蚊帳はづし一網打尽孫五匹

中原道夫選  
たかだ雁木

は、「平成21年度下半期 日報俳壇賞  
佳作賞」に選ばれている。

### 花見酒ブルーシートに飲ませけり

中原道夫選  
たかだ雁木

は、「平成22年度上半期 日報俳壇賞  
佳作賞」に連続の快挙である。

### ひとたびは見たし聴きたし風の金

黒田杏子選  
岩闘のぶお

は、最近作で一席だつた。このところ毎月のように入選されており、大変な勢いである。

(横道)へ少し逸れるが、岩闘氏は古希

を迎えるお歳らしいが、十一月二十五日

に日本武道館で行われる剣道七段の昇段

道に入られ、文武両道、鍛錬されている氣概には圧倒される。同年輩の人たちに

は「星」の存在で、もちろん私も夢をもらつてゐる一人だ。

中原選の句は、いずれも一讀ぱつ

と情景が浮かび、その場面での脳やか

な会話や笑い声まで届くようだ。

「孫五四」夏休みで外孫も泊りにきて

だろう。幼稚園児くらいのいとこ同士の

お孫さんたち。普段は、クーラーやマッ

トの蚊取りの生活だけれど、おじいちゃん

が吊つてくれた蚊帳に大喜び。夕べも

ふさけていてなかなか眠れなかつたの

に、一人が目覚ますと、もう皆を起し

て、ふさげつけつこが始つた。「一網打尽」

という四字熟語がユーモラスに効いてい

て、どんどん情景が広がる。

しかも、読み手は一回も読めばもう覚

えてしまう句だ。

黒田選の句は、風の盆についての評判

を聽いてはいるものの、未だ行つたこと

のない人なら、だれでも思うこと。それ

を代弁してくれていい句だから、共感されれる。

私の、岩闘氏の句で最も印象深いのは、

高田高校の教師で山岳部の顧問だった鏡

村先生のことを詠まれた句だ。鏡村先生

は、楓石という俳号をもち、「死者の楓

一人は曳いて一人押す」で、二〇〇四年

に長谷川権選の【朝日俳壇 年間最優秀

賞】を受けられた。

捨てられし桐田一面銀芒

岩闘のぶお 黒田杏子選



秋の交流会で11月8日の新聞を前に、岩闘順雄氏と

だが、楓石先生は、去年の四月に亡くなられた。【楓石句集】の前書きを書かれた松川太賀雄氏が中心となつて、去年の八月末、山岳部OB六人の方達、ご長男、ご長女の皆さんで、生前楓石先生が希望されていた火打山の頂上真下の、見晴らしの良い所に、お骨を埋められたと

いう。そのことを詠んだ句である。

### 清流の響きここまで駿酒

岩闘のぶお 黑田杏子選

どう見ても紅とは言えぬ吾亦紅

たかだ雁木 中原道夫選

中原道夫選  
たかだ雁木

二十二日の句。

### 秋祭囲碁の粗ぐ紙みこし

岩闘のぶお 黑田杏子選

これまで書いてきたところに、松川太

た。これで、日報人選三十八句になります。

た。

「岩闘さんの俳句作りは最近好調です。

日報俳壇に十一月八日以降、十五日

は一人の選者に選ばれ、ダブル(二句)

入選。さらに、二十二日にも一句入選で

す。

八日の句。

三席入選で、選者評は「捨てられた田は畠田。広大な斜面である。一面が芒に。それが銀芒であるところが壯麗」十五日の句。

「六十五歳を過ぎてから始めたのに、たいしたもんだ」と呟めると、彼は「楓石先生は全国版の朝日俳壇で約四百句、毎日俳壇にも約五十句も人選されたのは凄いことだ」と、謙遜とも憚れどもそれる返事を返してきました」とあつた。

私も以前、吾亦紅を詠んだことがある。

もの足りなくて買ひ足せる吾亦紅

光子

熱い思いをギュッと凝縮しているかに見えるあの玉は、紅というより黒。けれど、あの玉を水に落としたら、濃い紅色がぱっと広がるのではないかと思わせる。が確かに、「どう見ても紅とは言えぬ」だ。

岩間氏が、わずか五年の間にこれほど実力をつけられたとは! 句歴だけは長い私には驚異(もちろん脅威!)ものである。

松川・岩間氏はともに写真がお上手で、毎年配られる「ネットの『ふるさと越』」のカレンダーには、素晴らしい写真が何枚も使われている。

「松川さんも、俳句をなさつたら。写真のセンスからも、きっとお上手だと思

いますよ」と、勧めている。その度に「語量に乏しいから、ダメダメ」と、手を横に振られる。

けれど、ひそかに指を折つておられるような気がする。そして、突然「ピュー」といって、周囲をあつと言わせようとしているのではないか、と。

## むすび

以前、現代俳句協会の有志で、金子兜太先生と一緒に伊東へ巣狩りの吟行を行った時のこと。手洗いの水道の近くに、

ががんばの脚と思われる部分が水に濡れて落ちていた。

「え、こんなところにががんばの脚があるわー」思わず声を上げてしまった。

(可哀想。脚が無くなつて、どうしているのかしら)

こんなところにががんばの脚がある

光子

黒田杏子選の特選になつた。

指を折つてみたら、十七音だった。そ

の夜の句会に投句した。兜太選には入らなかつたが、何人かの人が採り、鑑賞してもらえた。すると、兜太先生は「予選に採つた句だが、皆の鑑賞を聴いていたから買ったんだよね」と言つて、「無理して買ったのに、何度も着なかつたらう」と言わってしまった。当時の忙しかった生活や、毛皮が流行ついた頃が思い出された。

A氏を交えて雑談をしながら、「麓に入つた時に美規主宰が、「言葉は易しく、思いの深い俳句を目指しなさい」と言われた教えを、改めて重く感じていたのだつた。



「海程」金子兜太主宰と

読書会で通つてゐる調布市には、一月に市民祭「樟まつり」がある。その催しの一つ、市民俳句大会があつたので、投票をした。

こんな高い毛皮を買つた日もある

光子

A氏の話は興味深かつたが、俳句づくりも人それぞれでいいのだと思った。私の場合は、文章の中に自分の俳句を入れても恥ずかしくない程度の句を作りたいので、目的とする先生の選を受けながら勉強をする、という方法を選んでいた。A氏の話は興味深かつたが、俳句づくりも人それぞれでいいのだと思った。私の場合は、文章の中に自分の俳句を入れても恥ずかしくない程度の句を作りたいので、目的とする先生の選を受けながら勉強をする、という方法を選んでいた。この句も、お喋りの切り取りだ。

物愛護の意味もあつてか、真冬でも東京では毛皮を着る人をほとんど見ない。時代の移りわりとともに、自身の生活の変化も感慨深い。

今は、温暖化というばかりでなく、動